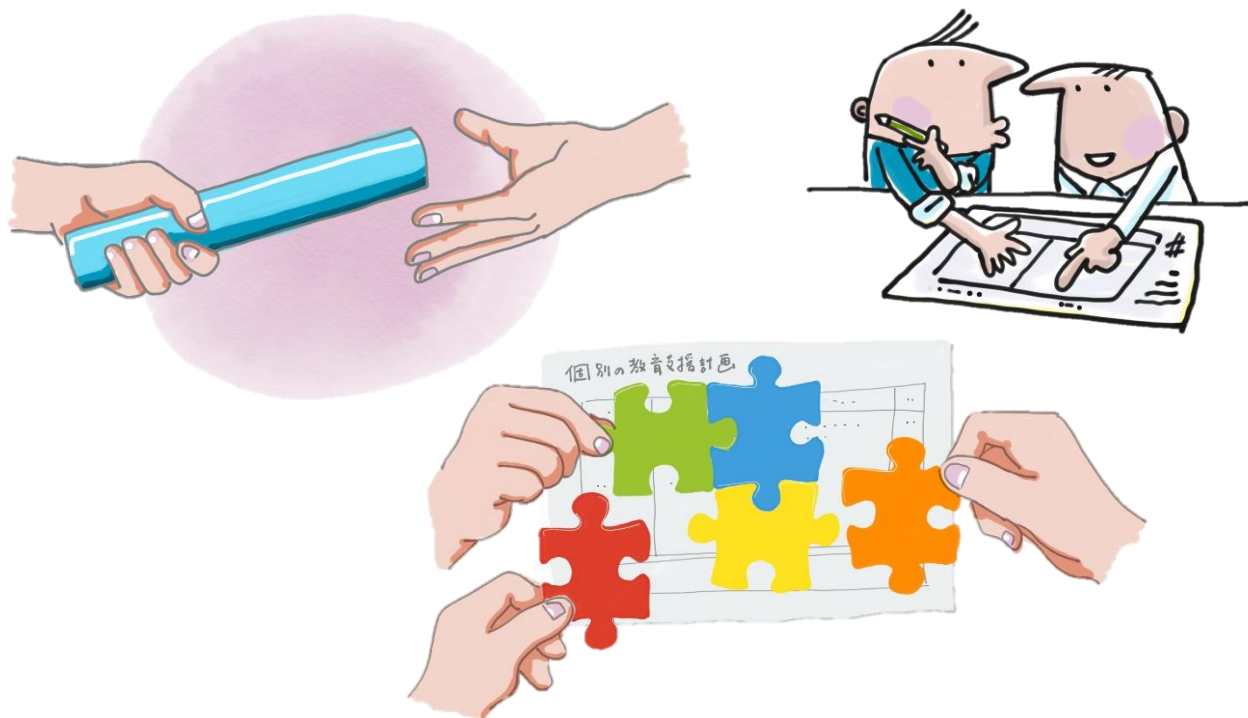


個別の教育支援計画

更新・作成の手引き

(令和7年4月改訂)



- | | | |
|---|----------------------|-------|
| 1 | 個別の教育支援計画について（目的と活用） | P.1～ |
| 2 | 本校での運用のイメージ | P.3～ |
| 3 | 様式ごとの記入の仕方や注意点 | P.4～ |
| 4 | 「随時更新」の例 | P.12～ |

(別資料)「サービス担当者会議」への参加の取組について

個別の教育支援計画について

特別支援教育は、学校での教育を土台としつつ、校内や校外の関係者と連携を図ることによって、一人一人の教育的ニーズに応じたより適切な支援を行うことが必要です。

個別の教育支援計画とは…

A より豊かな生活をイメージして、教育的ニーズを整理するためのツール



B 連携のためのツール



C 必要な支援を引き継ぐためのツール



1. 本人・保護者と話し合い「教育的なニーズ」を整理し長期支援目標を立てる

→ 支援計画Ⅰ

教育活動や生活支援を進めていく上での、方向性を示す大切なものです。本人・保護者・学級担任などで話し合い、まずはここを押さえることがスタートです。

(1) 本人・保護者の願いや感じている困難さを聞き取り、「今より豊かな生活」について話し合う

<今より豊かな生活をイメージするポイント>

- ・現在の生活における課題を解決することで、自分らしく輝ける生活ってどんな生活ですか？
- ・社会参加や自立に向けて、どんなことができるようになるとういいますか？

(2) 「今よりも豊かな生活」に近づくために必要なこと＝「教育的ニーズ」を考える

<教育的ニーズとは？>

- ・自立と社会参加を見据え、その時点でその子どもに最も必要な教育

<教育的ニーズを考えるポイント>

- ①障がいの状態等の把握
- ②その子どもにとって特別に必要な指導内容
- ③合理的配慮を含む支援内容

【文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引」より】

(3) 本人・保護者の願いを中心に教育的ニーズを踏まえた長期支援目標を立てる

- 2、3年後の生活のイメージ、高等部の生徒は、卒業後の生活をイメージして立てる

2. 「教育的なニーズ」を具体的な計画にする（短期支援目標設定、役割分担）

→ 支援計画Ⅱ

(1) 短期支援目標を立てる

長期支援目標に直接つながる短期支援目標を設定します。以下のような視点があります。

- 前任者から引き継いで取組むもの、今後も引き継いで取組む必要があるもの
- 1年間で取組むもの
- 校内だけでなく、家庭や関係機関と連携、協力して取組む必要のあるもの
- 教科や領域の個々の指導をこえて、学習や生活全般に関わるもの

(2) 役割分担・連携を検討、準備する

支援目標が決まったら、誰が、どんな取組を、いつ、どこでするのかを検討していきます。

まず、連携・役割分担の最小単位は、「本人」「家族」「学級担任」です。まずはここをしっかりと確認します。

その上で、

○自立活動室や寄宿舎などの「校内部門」

○福祉・医療機関などの「校外関係機関」



へ視野を広げながら、支援のピースを計画にはめていって下さい。

3. 個別の教育支援計画の随時更新で、取組みの鮮度を保ちましょう

個別の教育支援計画は、これまでの教育や支援を引き継いで実施し、ブラッシュアップ(より良いものにする)を加えて次の担当者に受け渡すことが目的のツールです。

年度初めなどのタイミングで新しく「作成」するのではなく、入学(転入)時に作成した計画書を、高等部卒業まで、柔軟に「随時更新」を重ねながら使っていくものです。

(1) 前年度からの在校生については、すでに前担任が、年度初めの更新案を用意してくれています。

まずは、前任者が行ってきた支援計画を確認して、それに沿って指導や支援を始めて下さい。

なぜならば、以下のような理由があります。

- すでに、前年度末の懇談会などで、保護者のニーズや支援の方向性について保護者確認が取れている支援計画
- 前年度1年間の取組みを踏まえて、随時更新を加えた実績のある計画書

(2) 更新案に書いてある内容を確認して下さい。

- 不明な点を、前担任などに確認
- 一緒に取組むことになっている校内部門や、校外関係機関に、「この内容を引き継いでいますが、変更などないですか？」等の確認(登下校時などの機会を利用)
- 4月、5月の指導のなかで、修正したり加えたりした方が良い内容があれば加筆修正

「随時更新」とは・・・

文字通り「随時」で、年度初めや前期末、後期末などの「節目」の更新だけを指すものではありません。「節目」の更新作業だけでは、計画した支援が実行されなかったり、情報の鮮度が失われてしまったりします。

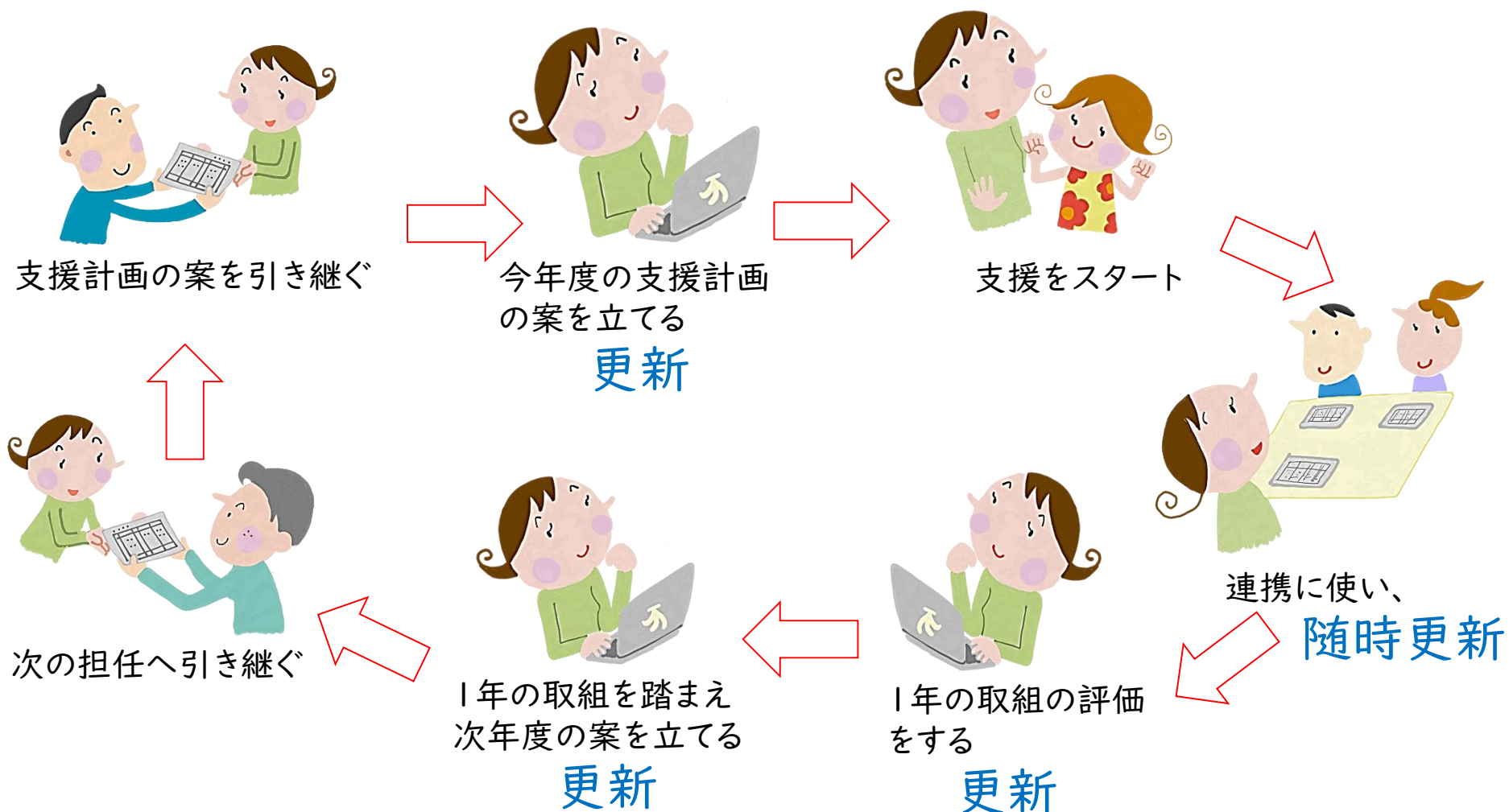
以下の会には、個別の教育支援計画を持参して話し合いの材料にし、支援内容や分担を見直して下さい。そして会のなかで分かったことや決まったことを、必ず追記、修正して「更新」し、常に最新の状態にして下さい。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① 家庭訪問(4・5月) | ⑦ サービス担当者会議(校外関係者との会議です) |
| ② 自立活動室との打ち合わせ(4・5月) | ⑧ センターケース会 |
| ③ 医療的ケア児童生徒の連絡会(4・5月) | ⑨ その他の、校内／校外でのケース会 |
| ④ 寄宿舎との連絡会(年2回) | |
| ⑤ 前期末懇談会(10月) | |
| ⑥ 後期末懇談会(3月) | |

※会議や打ち合わせ以外にも、日常的な保護者や関係機関とのやりとりを通して更新を行うこともあります。

○年間の運用のイメージ

- ・年度初めに、校外からの新転入生は新規作成、前年度からの在校生は前担任から引き継いだシートをもとに内容を確認し、必要な加筆・修正点を加えます。
- ・年度途中にも「随時更新」を加えながら使っていきます。



○本校の個別の教育支援計画の構成

調査票①

面 調 査 票 ①
(更新日 令和 年 月 日)
香川県立高松支援学校

姓 名	性 別	生 年 月 日	令 和 年 月 日
生 年 月 日	(年 〇〇〇 - 月 〇〇〇)		
保護者氏 名	現 住 所	TEL 〇〇〇 (△△△) 〇〇〇〇	
病 名 等			
手 帳			
合併症 (例えば心臓疾患、ぜんそく等、あれば記入)		発作の有無	
		有	
通学方法 (交通手段と距離) だいたいどこまで来ません 例 母が自家用車で送迎 約5 km 路線バス 自家用車とスクールバス (朝のみ)		その他 例 センター入所 寄宿舎入会 (水、木週2回)	
家 族 構 成	氏 名	備 考	
父	高松 〇〇		
母	高松 △△		
兄	高松 **		
妹	高松 ??		
その他			
小 学 校	小 学 校	小 学 校	小 学 校
山田花子			
香川三郎			
中 学 校	中 学 校	中 学 校	中 学 校
高 校	高 校	高 校	高 校

児童生徒の基礎
情報を整理する

調査票②

票 ② (支援関係機関等一覧)
(更新日 令和 年 月 日)
学部 年 氏 名 ()

主治医 病院名	医療・福祉・労働関係等の一覧
周囲こどもとおとなの医療センター神経内科 〇〇先生	
他のかかりつけ医・病院名	
周囲こども医療センター心臓血管外科 △△先生	
〇〇小児科クリニック 〇〇先生	
PT、OTなど 担当者名 回数	
PTかかわり総合リハビリテーションセンター 〇〇先生 週1回	
OTかかわり総合リハビリテーションセンター △△先生 2週間に1回	
手術歴 (手術しない)	
ハムストリングス腱延長のための手術	
マイクロポンプの埋込み手術	
医療的ケア	
専任	
器具・補助具 (相談先、事業所名、担当者名)	
車いす 〇〇工房 (R2.5)	
下肢装具 △△店 (R3.3)	
相談先 (事業所名、担当者)	
相談支援事業所☆☆ 担当: VV	
サービスの種類・事業所名	
放課後等児童デイサービス ××事業所 (R5.4~)	
身体介護 △△事業所 (R2.4~)	
〇〇作業所月曜日～金曜日 10時～16時	
〇〇事業所月曜日～金曜日 10時～16時	
交流学習・遊びの場・地域の活動グループ・遊技場	
学習塾など	
その他	
チェック欄	
学年	
担任名	

支援している
関係機関の一覧

支援計画 I

支援計画 I
香川県立高松支援学校
作成者氏名 〇〇 令和 年 月 日

(困っていることなど) 現在の課題	本人	保護者	本人	保護者	願 望
児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標					
連携する関係機関等					
連携の記録・履歴					

願い等を聞き取り、
教育的ニーズを踏
まえて長期支援目
標を立てる

支援計画 II

個 別 の 教 育 支 援 計 画 II
香川県立高松支援学校
作成者氏名 〇〇 令和 年 月 日

短期支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名 (年月日)
短期支援目標に対し、支援や 手だてを具体的にし、分担や 連携を計画する				
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				

- ✓ 「調査票①②」で情報を整理し、
- ✓ 「支援計画 I」で、児童生徒や保護者の意見や教育的なニーズを踏まえた長期支援目標を立てます。
- ✓ 短期支援目標を立て、保護者や校内外の関係者と連携して「誰が」「何をするか」を具体的に計画していきます。

調査票①の記入の仕方

教育支援計画調査票①

(更新日 令和5年 5月30日)

香川県立高松支援学校

ふりがな	たかまつ たろう	氏 名	性別	男	生年月日	令和 △年 △月 △日
高松 太郎						
ふりがな	たかまつ じろう	保護者氏 名	現住所	(〒 ○○○ -△△△△) 香川県高松市○○町○○番地 TEL ○○○ (△△△) □□□□		
高松 次郎						
病 名 等	例 脳性まひ ダウン症 ○○症候群など					
手 帳	身 障 ○ 種 ○ 級		療 育 △			
合併症 (例えば心臓疾患、ぜんそく等、あれば記入)					発作の有無	
					有	
通学方法 (交通手段と距離) だいたいでもかまいません 例 母が自家用車で送迎 約5km 路線バス 自家用車とスクールバス (朝のみ)				その他 例 センター入所 寄宿舎入舎 (水、木週2回)		
家 族 構 成	続 柄	氏 名		備 考		
	父	高松 ○○				
	母	高松 △△				
	兄	高松 **				
	妹	高松 ??				
	祖母	香川 ××				
チェック欄 (担任名記入)						
小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	
田中一郎 香川三郎	山田花子					
中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	

確認や修正をした日を記入
します。

年度途中に変更があった場合は、
取り消し線を引き、加筆をします。

※家族構成に関して、離婚や逝
去等があった場合は、取り消
し線を引きます。

年度初めに記入内容の確認・
修正を行った担任名を記入しま
す。
担任が変わった際には、取消線
を入れて、下に追記します。

調査票②の記入の仕方

手術歴について

- ・前の情報を消さない。

医療的ケアについて

- ・医療的ケアに関する手術は「手術歴」の欄に記入します。

装具・補助具について

- ・担当名者は製作した事業所で直接かかわる人を分かる範囲で記入します。

サービスの種類・事業所名について

- ・現在利用している福祉サービス等について、利用を開始した年・月を付けて記入します。

労働について

- ・労働、進路指導に関する経験（学校行事含む）があれば記入します。
- ・高等部は、本人の進路選択に関わる事項のみ記入します。

年度初めに記入内容の確認・修正を行った担任名を記入します。

担任が変わった際には、取り消し線を入れて、下に追記します。

教育支援計画調査票②（支援関係機関等一覧）	
（更新日 令和 年 月 日）	
学部 年 氏名（ ）	
医療・福祉・労働関係等の一覧	
主治医 病院名	四国こどもとおとなの医療センター神経内科 ○○先生
他のかかりつけ医・病院名	四国こどもの医療センター心臓血管外科 △△先生 ◇◇小児科クリニック ○○先生
PT、OTなど 担当者名 回数	PTかかわ総合リハビリテーションセンター □□先生 週1回 OTかかわ総合リハビリテーションセンター △△先生 2週間に1回
手術歴（※削除しない）	ハルストリングス腱延長のための手術 パタコフェンポンプの埋め込み手術
医療的ケア	導尿
装具・補助具（相談先、事業所名、担当者名）	車いす ○○工房 (R2.5) 下肢装具 △△店 (R6.3)
相談先（事業所名、担当者）	相談支援事業所☆☆ 担当：▽▽
サービスの種類・事業所名	放課後等児童デイサービス ××事業所 (R5.4～) 身体介護 △△事業所 (R2.4～)
労働	○作業所見学 (R2.10) ○事業所実習 (R2.11)
その他	交流学習、親の会、地域の活動グループ、訓練会、学習塾など（名称・内容・回数） ひまわり親の会月例会 (R4.4)
チェック欄	
学年	
担任名	

確認や修正をした日を記入します。

年度途中に変更があった場合は、取り消し線を引き、変更事項をその下に書きます。

その他について

- ・タブレット型情報端末の就学奨励費での購入、日常生活用具での支援機器の購入があった場合はここに記入します。

※年度途中に変更があった場合は、取り消し線を引き、変更事項をその下に書きます。

※「支援サービス（福祉・医療など）調査票」を元に記入し、保護者懇談や家庭訪問で内容の確認をします。

※「支援サービス（福祉・医療など）調査票」を元に記入し、保護者懇談や家庭訪問で内容の確認をします。

個別の教育支援計画 I の記入の仕方 (I)

このシートの作成のねらい

個別の教育支援計画 I

〇〇部 〇年 高松太郎

香川県立高松支援学校
作成者氏名 ㊞ 令和 年 月 日

(困っていることなど) 現在の課題	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そう。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。PTには筋力が低下していると言われた。
(つきたい力など) 現在の願い	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標

- A 筋力をつけて、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B タブレット型情報端末を使用して、学習することができる。
C 自分の意思をはっきりと伝えることができる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・☐ 病院 PT ・☐ 事業所 ・寄宿舎 ・自立活動室	・寄宿舎との連絡会 (R3. 4. 20) ・医療的ケア児童生徒の連絡会 (R3. 4. 5) ・自立活動室との打ち合わせ (R3. 5. 15) ・☐ 病院 PT 見学・支援内容に関する相談 (R3. 7. 2) ・サービス担当者会議 (R3. 10. 12) ・センターケース会 (R3. 12. 15)

本人や保護者の現在の課題(困っていること)、現在の願い(つきたい力)を明確にして

教育的ニーズを考え、
本人・保護者・担任で
「今より豊かな生活」
の話し合い



「今より豊かな生活」の実現のために必要な児童生徒の教育的ニーズを踏まえた長期支援目標を立てます。

この欄には、教育的ニーズを踏まえた長期・短期支援目標を実現するために必要な連携機関を書き出し、実際に行った連携の履歴を残していきます。

個別の教育支援計画 I の記入の仕方（２）

※①～③について家庭訪問等で話し合います。

個別の教育支援計画 I

〇〇部 〇年 高松太郎

香川県立高松支援学校
作成者氏名 令和 年 月 日

（困っていることなど） 現在いる課題	本人	- 話したことが相手に伝わりにくい。 - 最近首や背中が痛くなることが多い。 - パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	- 話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 - 家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そう。 - 勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 - 最近体がかく動きにくくなってきた。PTには筋力が低下していると言われた。
（つきたい願いなど） 現在いる願い	本人	- もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 - しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	- 健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 - 親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 - タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標

- A 筋力をつけて、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B タブレット型情報端末を使用して、学習することができる。
C 自分の意思をはっきりと伝えることができる。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
□□病院 P T 〇〇事業所 - 寄宿舍 - 自立活動室	・寄宿舍との連絡会 (R3. 4. 20) ・医療的ケア児童生徒の連絡会 (R3. 4. 5) ・自立活動室との打ち合わせ (R3. 5. 15) ・□□病院 P T 見学・支援内容に関する相談 (R3. 7. 2) ・サービス担当者会議 (R3. 10. 12) ・センターケース会 (R3. 12. 15)

① 本人、保護者が感じている課題や、願いを聞き取ります。

- ・校外からの新転入生は、「個別の教育支援計画作成のための事前調査(右)」が入学式の日が届くので、その内容を転記し、家庭訪問等で確認をします。
- ・前年度からの在校生は、すでに前担任が、本人・保護者から聞き取りを行って記入しています。家庭訪問等でその内容を確認し必要な追加や修正を加えます。

令和2年度 個別の教育支援計画作成のための事前調査

(対象学年：小学1年、2年、3年、4年、5年、6年、7年、8年、9年、10年、11年、12年)

学校 年 月 日 児童生徒氏名

このシートは、学校と保護者が児童生徒について確認する事項について考える資料になります。このシートを参考資料として、児童生徒の状況やニーズなどについて話し合いを行い、個別の教育支援計画を作成します。

【児童の状況（本人・保護者）】「児童の状況」の項目欄に、下記に示して詳しく状況を参考にする項目を記入してください。状況が変化した場合、お話ししている資料を再度更新してください。

身体・生活機能	学習・生活	社会性・行動	学習
発達障害 身体 発達 発達 発達	身体 発達 発達 発達 発達	社会性 行動 社会性 行動 社会性 行動	学習 学習 学習 学習 学習

【児童の状況（困っていることなど）】

・現在の生活や学習の中で、困っていることやできていないことを記入します。

・お話を十分お聞きの上、記入してください。お話を聞き取りを促さない場合は、確認して可能な限り記入してください。

② ①の聞き取りを踏まえて「より豊かな生活」に必要な教育的ニーズを整理し、話し合います。

- ・様式に欄を設けてはいませんが、大切な検討です。
- ・①の聞き取りに合わせて話し合いをしてください。

「より豊かな生活」に必要な教育的ニーズはどう考えるの？

自立と社会参加を見据え、今、身につけておきたい力、その子どもに最も必要な教育のことです。

<整理するポイント>

- ①障がいの状態等の把握
- ②その子どもにとって特別に必要な指導内容
- ③合理的配慮を含む支援内容

③ 「より豊かな生活」の実現に向けて、教育的ニーズを踏まえた長期支援目標(2～3年)を記入します。

- ・上から順にA、B、Cとアルファベット記号に続けて記入します。
- ・「～ができるようになる」「～する」など児童生徒の立場で表現します。
- ・高等部生徒で就学奨励費でICT機器を購入した場合は、その活用目的が含まれるようにしてください。

個別の教育支援計画 I の記入の仕方（3）

個別の教育支援計画 I

〇〇部 〇 年 高松太郎

香 川 県 立 高 松 支 援 学 校

作成者氏名 令和 年 月 日

作成、更新した日を記入し、作成者の名前を書きます。

（困っていることなど）	本人	・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなることが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
	保護者	・話をしても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。PTには筋力が低下していると言われた。
（つきたい願いなど）	本人	・もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 ・しんどい時に体をほぐしてほしい。
	保護者	・健康に過ごしてほしい。体の状態をできるだけ維持してほしい。 ・親が連れて行かなくても、外出できるようになってほしい。 ・タブレット型情報端末を利用して、少しでも自分で学習活動ができるようになってほしい。

教育的ニーズを踏まえた長期・短期支援目標を実現するために、必要と思われる校内部門や、校外機関の名称を記入します。

・年度初めの更新・作成時に想定される連携先（名称のみ）を書きます。

年度内に実際に行った連携（関係機関との会議等）について履歴を記入します。

・校内で実施したケース会等についても記入します。
・会議等の「名称と実施日のみ」を記入します。参加者や内容は、別のファイル「連携の記録」（次ページ）に書きます。

児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標

- A 筋力をつけて、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。
B タブレット型情報端末を使用して、学習することができる。
C 自分の意思をはっきりと伝えることができる。

【必ず記入する連携】

（校内）医療的ケア児童生徒の連絡会、寄宿舍との連絡会、自立活動室との打ち合わせ、歯科医による摂食指導、進路に関する懇談会等
（校外）サービス担当者会議、センターケース会、PT見学、OT見学、ST見学、ORT見学、外部機関とのケース会（※本人・保護者に開示していないケース会議は記入しません。開示しているケース会は記入します。）

※それ以外の連携については、必要に応じて記入します。

連携する関係機関等	連携の記録・履歴
・☐病院PT ・☐事業所 ・寄宿舍 ・自立活動室	・寄宿舍との連絡会 (R3. 4. 20) ・医療的ケア児童生徒の連絡会 (R3. 4. 5) ・自立活動室との打ち合わせ (R3. 5. 15) ・☐病院PT見学・支援内容に関する相談 (R3. 7. 2) ・サービス担当者会議 (R3. 10. 12) ・センターケース会 (R3. 12. 15)

個別の教育支援計画Ⅱの記入の仕方（Ⅰ） このシート作成のねらい

個別の教育支援計画Ⅱ

〇〇部 〇年 高松 太郎

香川県立高松支援学校

作成者氏名 令和 年 月 日

短期支援目標	支援の内容							
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）				
教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標」に対応した今年度の短期支援目標を記入します。	学級、家庭での支援内容を保護者と話し合い、担任や保護者について「誰が」「何をするか(手だて、配慮)」を具体的に記入します。		短期支援目標に対応した校外の関係機関での支援内容や担当する機関や人を記入します。					
	教科担任や自立活動室、寄宿舎、養護教諭、学校看護師等との連携について「誰が」「何をするか(手だて、配慮)」を具体的に記入します。		前年度の支援計画や、サービス担当者会議等で「誰が」「何をするか」を確認し、必要に応じて修正します。					
「〇〇をする」⇐「誰が」								
「〇〇をする」⇐「誰が」								
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項								
１．短期支援目標に対して、支援の内容(手だて、配慮)を行ってどうだったかを記入します。 ２．短期支援目標に対して、家庭、担任以外の校内関係者、校外関係機関の取り組み状況を記入します。 ３．次年度に引継ぐ取り組み内容を記入します。								

【備考】

転入学先の学校へ個別の教育支援計画Ⅰ・Ⅱを送付する場合、評価記入後、保護者確認を行ってから送付してください。

個別の教育支援計画Ⅱの記入の仕方（２）

短期支援目標に対応して、
校内、校外の支援内容を
横に揃えて記入します。

「誰が」を担当欄に、
「〇〇をする」を学校・家庭欄に書きます。
・担当者が主語になる表現で書きます。

作成、更新した日を記入し、
作成者の名前を書きます。

個別の教育支援計画Ⅱ				
部 年		香 川 県 立 高 松 支 援 学 校		
		作成者氏名 令和 年 月 日		
短期支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名（年月日）
a 身振りやタブレット型情報端末で自分の意思を伝えることができる。	a 身振り、絵や写真のカード、タブレット型情報端末など、これまでに習得しているコミュニケーションの手段を使う。 a 自分から他の人に働きかけやすいように、場面設定や関わり方などに配慮する。	担任 担任 〇〇 (舎)	a 言葉や身振りによるコミュニケーションを促す。身振り一覧表を活用する。	放課後等デイサービス：〇〇さん (R〇.〇.〇)
b 1000円以下の買い物をすることができる。	b 硬貨を見て金額を答える練習や、指定された金額の硬貨を出す練習をする。 b 月に1回、学校の近くの店で買い物をする機会を設ける。	担任 保護者	b 長期休みや土曜日の利用時に、弁当やおやつを買いに行く機会を設ける。	放課後等デイサービス：〇〇さん (R〇.〇.〇)
c 自分の思いを伝えたり、周りの人と簡単なやりとりができる。	c タブレット型情報端末を用いて自分の思い（要求、拒否）を伝える練習をする。 c 教師に質問したり挨拶したり、指導者から質問されたことを答えたりする経験を多くできるよう配慮する。	担任 保護者	c タブレット型情報端末を用いたコミュニケーション指導を行う。 夕食後の自由時間に生活支援員とやりとりする時間を設ける。 サービス担当者会議で支援方法の共有を行った。	かがわ総合リハビリテーション病院：〇〇ST(R〇.〇.〇) かがわ総合リハビリテーション病院：〇〇生活支援員(R〇.〇.〇) 〇〇相談センター：〇〇さん(R〇.〇.〇)
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				
a 身振りでのコミュニケーションの幅が広がってきた。その身振りが何を意味しているのか一覧を作成し、寄宿舎や放課後等デイサービスと情報共有を行ったことで、学校以外の場でも伝えたいことが伝わり、以前のように、伝わらないことで泣いたり怒ったりすることがなくなってきた。今後はタブレット型情報端末で意思を伝えることにも取り組み、進捗を関係者で情報共有することで、それぞれの場所で伝わったといった成功体験を今後も積み重ねて行けるよう配慮する。				
b 1000円までの硬貨の学習では、500円玉1枚と100円玉3枚で何円か、など実物や画像による問題に正解し、財布の中からお金を出すことができるようになった。しかし、学校近くのパン屋での買い物になると、お金の計算が混乱することがあったので、教室で買い物の疑似体験を行ってから買い物に行くことで落ち着いて正確なお金を支払うことができるようになった。学校での取り組みを家庭や放課後等デイサービスと情報共有したことで、家やデイサービスの近所のお店でもお金を支払うことができるようになった。今後は、お金の学習とともに電子マネーの取り扱いについても取り組む。				
c タブレット型情報端末に示された6つのイラストの中から一つを選ぶことで、休憩時間にしたい活動を教師に伝えることができるようになった。拒否については、身振りではできるが、タブレット型情報端末ではまだ難しく、かがわ総合リハビリテーション病院STと連携しながら、意思の表出方法について今後取り組んでいく。学校では教師とのやりとりを楽しむ場面が増え、以前に比べ言葉が増えてきている。また、かがわ総合リハビリテーションセンターでも支援施設でも言葉が増え、やりとりを楽しむ姿がみられるようになっている。				

年度末に、短期支援目標のアルファベット記号に対応して記入します。

支援計画Ⅰの児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標に対応した1年間で取り組む具体的な短期支援目標を記入します。
・どのニーズに関する目標が分かるよう、左端に小文字アルファベット記号を書きます。

「誰が」を担当欄に、「〇〇をする」を福祉・医療・労働等の欄に書きます。
・「情報交換をした」「アドバイスを受けた」「見学を行った」という履歴は書きません。
関係機関が行う支援内容を記入します。
・担当者名には、確認した年・月を付けます。

福祉・医療・労働等の欄が空白になっている場合
・前年度の連携が転記されていない可能性があります。必ず前年度のシートを確認して確実に反映させてください。

年度内の
「随時更新」

【ケースⅠ】関係機関と一緒に取組んでもらえることが確認できた場合

①支援計画Ⅰに「会議名・実施日」を記入

個別の教育支援計画Ⅰ	
〇〇部 〇年 高松太郎	香川 令和7年9月20日 作成者氏名
(困っている課題)	本人 ・話したことが相手に伝わりにくい。 ・最近首や背中が痛くなるが多い。 ・パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
(つけない力など)	本人 ・話をしていても発音が不明瞭で、慣れていない人には伝わりにくい。 ・家では、ゲームをしたり、テレビやビデオを見てばかりで体に悪そうだ。 ・勉強やコミュニケーションにタブレット型情報端末を活用してみたい。 ・最近体がかたく動きにくくなってきた。PTには筋力が低下していると言われた。
児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標	
A 筋力をつけて、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。 B タブレット型情報端末を使用して、学習することができる。 C 自分の意思をはっきりと伝えることができる。	
連携する関係機関等	連携の記録・履歴
☐ 〇〇病院PT ☐ 〇〇事業所 ☐ 寄宿舍 ☐ 自立活動室	☐ 寄宿舍との連絡会 (R3.4.20) ☐ 医療的ケア児童生徒の連絡会 (R3.4.5) ☐ 自立活動室との打ち合わせ (R3.5.15) ☐ 〇〇病院PT見学・支援内容に関する相談 (R7.7.2) ☒ サービス担当者会議 (R7.9.20) ☐ センターケース会 (R3.12.15)

②支援計画Ⅱに「だれが(担当者)」「〇〇をする」を追記

個別の教育支援計画Ⅱ			
〇〇部 〇年 高松太郎		香川県立吉松高等学校 作成者氏名 令和7年9月20日	
短期支援目標	支援の内容		
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等
a 全身の筋力を付け、いろいろな場所をPCウォーカーで歩いて移動することができる。	a 四つばいでの移動や膝立ち、立位の保持など、体幹で支えることができる時間を設ける。 a 給食場までの移動時にPCウォーカーで移動する距離を増やしていく。 a 寄宿舍では、1日に1回PCウォーカーで廊下を1往復する機会を設ける。	山田 香川 田村 (倉)	a 股関節周囲や体幹の筋活動を促進する運動をする。 a 四つばいで、移動する機会を設ける。 A ウォーカーで散歩をする時間を設ける。
b タブレット型情報端末 (iPad) を使い、授業ノートの整理や宿題などを自分で行うことができる。	b 教科学習の中で、タブレット型情報端末 (iPad) の学習支援アプリケーションを用い、学習に取り組むようにする。 b タブレット型情報端末 (iPad) の基本設定やアプリケーションの使い方、操作の仕方が理解できた段階で、家庭での宿題を行うようにする。	山田 高山 教科担任 保護者	b 放課後等デイサービスで宿題に取り組む時にも、タブレット端末を使用する。
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項			

・「福祉・医療・労働等」欄に、関係する短期支援目標に対応させて(横の位置)に、アルファベット記号を付けて記入します。具体的に「〇〇する」と書きます。

③引き継ぐ必要がある場合は、「連携の記録」の「校外機関との会議・打ち合わせ・見学」のファイルにシートを追加し、会議内容の概要を記入します。

校外機関との会議・打ち合せ・見学	
会議の名称	サービス担当者会議
児童生徒名	〇〇 〇〇
日時	令和 年 月 日 15:30 ~ 16:30
場所	本校会議室
参加者	本人、保護者、相談支援専門員●●さん、福祉サービス事業所「●●」●●さん、●●特別支援教育コーディネーター、.....
内容	

④支援計画Ⅰ・Ⅱを、学年主任、部主事に回覧したのち、保護者に配布します。

- ・保護者は、サービス担当者会議に参加した関係機関に届ける。
- ・また、家庭に配布してある支援計画の家庭用ファイルに綴じこみます。

年度内の
「随時更新」

【ケース2】校内や校外の関係機関との会議や見学をしたが、直接、支援目標に関係する取組の追加等はなかった場合

①支援計画Ⅰに「会議名・実施日」を記入

個別の教育支援計画Ⅰ	
〇〇部 〇年 高松太郎	香 川 県 立 高 松 支 援 学 校 作成者氏名 〇 令和7年6月13日
(困っていることなど) 本人 保護者	- 話したことが相手に伝わりにくい。 - 最近首や背中が痛くなることが多い。 - パソコンをしたいのだが、設定がうまくできない。
(つけない願ひなど) 本人 保護者	- もっといろいろな人と話をして、知り合いを増やしたい。 - しんどい時に体をほぐしてほしい。
児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標	
A 筋力をつけて、スムーズに移動や姿勢変換ができるようになる。 B タブレット型情報端末を使用して、学習することができる。 C 自分の意思をはっきりと伝えることができる。	
連携する関係機関等	連携の記録・履歴
〇〇病院 P T 〇〇事業所 - 寄宿舍 - 自立活動室	- 寄宿舍との連絡会(R3.4.20) - 医療的ケア児童生徒の連絡会(R3.4.5) - 自立活動室との打ち合わせ(R3.5.15) 健康保持に関する情報交換会(R7.6.13)

②支援計画Ⅱへ更新は必要ありません

個別の教育支援計画Ⅱ			
〇〇部 〇年 高松 太郎		香 川 県 立 高 松 支 援 学 校 作成者氏名 〇 令和 年 月 日	
短期支援目標	支援の内容		
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等
a 全身の筋力を付け、いろいろな場所をPCウォーカーで歩いて移動することができる。	a 四つばいでの移動や膝立ち、立位の保持など、体幹で支える学習の時間を設ける。 a 給食場までの移動の際にPCウォーカーを使用して移動する機会を増やしていく。 a 寄宿舍では、1日に1回PCウォーカーの下を歩かせる機会を設ける。	山田 香川 田村 (金)	a 股関節周囲や体幹の筋活動を促進する運動をする。 a 四つばいで、移動する機会を設ける。
b タブレット型情報端末(iPad)を使い、授業ノートの整理や宿題などを自分で行うことができる。	b 教科学習の中で、タブレット型情報端末を用いた学習支援アプリケーションを取り入れる。 b タブレット型情報端末(iPad)の基本的な操作方法の使い方、操作の仕方を理解できるように家庭での宿題を行うようにする。	山田 香川 田村 (金)	b 放課後デイサービスで宿題に取り組み、タブレット型情報端末を使用する。
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項			

更新は
不要です

③引き継ぐ必要がある場合は、「連携の記録」の「校内の会議・打ち合わせ」「校外機関との会議・打ち合わせ・見学」のファイルにシートを追加し、会議内容の概要を記入します。

校外機関との会議・打ち合せ・見学	
会議の名称	健康保持に関する情報交換会
児童生徒名	〇〇 〇〇
日 時	令和 年 月 日 15:30 ~ 16:30
場 所	本校会議室
参 加 者	〇〇病院 ●●医師、訪問看護ステーション「〇〇」●●さん、●●小学部主事、●●(担任)、●●特別支援教育コーディネーター、...
内 容	<各担当からの報告> <今後の支援の方向性>

④支援計画Ⅱに更新を加えなかった場合は、閲覧や保護者配布は必要ありません。

・データの修正、更新のみで構いません。

まず先生方に
知ってほしい

「サービス担当者会議」への参加の取組について

福祉サービス事業所との連携がなぜ必要なの？

特別支援教育では「一人一人の**教育的ニーズ**の把握」がキーワードとなっています。**教育的ニーズ**とは、児童生徒一人一人に想定される「**今よりも豊かな生活**」を実現するために、今、身につけておきたい力のことです。

教育的ニーズの把握の元になる、この「**今よりも豊かな生活**」の**想定**は学校での学習や生活だけを指すものではなく、学校以外の生活の様子も含まれるものです。

こういう考え方から、学校以外の生活や活動の様子を知ったり、学校での取組や変容を他の生活の場に広げたりするために、「**医療や福祉等の関係機関との連携を行う**」よう、学校教育法施行規則や学習指導要領に示されています。



しかし、実際に連携を行うには3つの課題があると言われています。(※)

学校と福祉（放課後等デイサービス等）との連携の3つの課題



連携のための時間
・ 場所の確保



教員の福祉事業所
への理解



お互いの支援計画
の活用

そこで「サービス担当者会議」への参加を行っています。

本校ではこの3つの課題への対応として、平成27年度から「サービス担当者会議」への参加を行っています。



「サービス担当者会議」とは…

デイサービス等の支援の給付に必要な手続きとして、利用者個々に対して年1～2回開かれ、本人や家族、利用する福祉事業所の担当者が集まり、支援目標や役割分担を確認・協議する福祉関係者の会議。

すでに児童生徒に年1～2回行うことになっている「サービス担当者会議」に参加させてもらうことで、学校が主導してケース会議を企画することなく、より多くの児童生徒について、福祉サービス事業所との連携の機会を確保しよう、という趣旨です。

参加の詳しい手順等につきましては、個別に特別支援教育コーディネーターから説明します。

「サービス担当者会議」に参加する主な目的は、次の2つ。

- ①学校以外での生活や活動の様子、関わっている人を知る。
- ②学校での支援目標や取組を知ってもらい、連携して一緒に取組んでもらえることがないか、協力を依頼する。

この目的の説明とともに、サービス担当者会議への参加を、学校から福祉サービス事業所（相談支援担当者）に、毎年依頼をしています。

連携促進の工夫

学校と、福祉サービス事業所では、児童生徒を預かる時間がちょうど反対になる関係で、時間の調整に難しさがあります。そこで本校では、先方からの「学校での開催」「授業時間での参加」の希望や相談に、可能な範囲で応じられる旨を周知しています。

その相談があった際には、授業担当者の補欠等の調整が必要になりますが、ご理解の上、ご配慮をお願いいたします（令和元年度の授業時間開催は、37会議中12回ありました）。

●参加した先生の声

- ・学校以外の家やデイサービスでの生活の様子が分かって良かった。
- ・保護者の悩みを共有することで、今後の接し方を家庭、デイサービス、学校で共通するきっかけになった。
- ・顔合わせができたので、夏休み中の見学などがスムーズに行えた。



●児童生徒の生活の変化の事例



- ・学校でしか水分補給ができていなかったが、方法などをデイサービスで共通理解し取り組んでもらえるようになった。その結果、デイサービスでも水分補給ができるようになった。さらに家庭でも取組んでくれるようになり、現在では家庭でも水分がスムーズにとれるようになった。
- ・子どものちょっと困った行動について、学校と福祉サービス事業所で共通した対応や指導を行うことで解決することができた。



不明な点や、質問がありましたら、特別支援教育コーディネーターにおたずねください。

※（参考文献）

丸山啓史（2018）：障害者福祉と学校教育の連携-放課後等デイサービスに焦点を当てて-、社会保障研究2-(4),P.512-P.524.

丸山啓史(2011):障害のある子どもの放課後活動と学校との連携をめぐる実態と課題 (SHIOJI kyoko, TANIGUCHI kimihiko ,SHIKU sachiko,OOBICA naoko,,NISHIMURA kenichi,)